

B767 の思い出 その2 ファーストフライト

荒岡 衛

ボーイング 767(以下 B767)は 1982 年 8 月に初号機がユナイテッド航空に引き渡された双発ジェット機で様々な新しい点があった。まずアビオニクス*の導入により、コックピットは機関士を不要とする 2 人体制になった。そして操縦機器関係は並行して開発された単通路機 B757 と共通化されたため、開発費が抑えられただけでなく、パイロットは B767 の免許を取得すれば B757 も操縦できる。双発で客室通路が 2 本あるのはエアバス A300 が先行したが、ボーイングとしては初めてであった。日本では YS11 の生産が終了した時期だったので部品供給にとどまったものの YS の後継機的な雰囲気もあった。そのような理由もあり貨物専用機を含め、全日空は延べ 97 機、日本航空は 65 機を使用している。

先に B767 を運行したのは全日空でそのファーストフライトは 1983 年 6 月 21 日の東京発松山行きの NH581 便だった。その少し前から新機種が就航する際はその初便には乗ろうという目標を立てていて、この日は火曜日だったから休暇を取って搭乗した。松山の天気はあいにくの雨模様、それでも搭乗機が折り返して離陸するところを写真に撮った後、松山城などを見学して帰りも同じ B767 の NH592 便で戻った。その後この機体 JA8480 には 2 回搭乗している。

日本航空のファーストフライトはそれに遅れること 2 年半の 1985 年 11 月 1 日だった。2 機が同時に就航し、一方は東京-福岡、他方は東京-札幌に入った。当時九州電力を担当していて新小倉発電所の運用に関する調査の仕事が入った。期限が厳しくないものだったので 11 月 1 日ならいいよと言って客先と調整し、行きは朝 7:00 発の JL351 便、帰りは 20:35 発の JL376 便を利用し一日で両方に乗った。帰りの JA8232 はその後、計 6 回搭乗しているけれど、行きの JA8231 にはこの時しか乗れていない。滅多にないラッキーな出張だった。

アビオニクス : Aviation(アビエーション:航空) と electronics(エレクトロニクス : 電子機器) から合成された用語で航空機に搭載され飛行のために使用される電子機器のこと。通信機器、航法システム、自動操縦装置、飛行管理システム などがある。